

2004年5月号

中村伊知哉所長のどこでも移動所長室

ヤヤ子 = ヤ 所長 = 所

国民総ポップ・クリエイター

- > ヤ ドーはみーんなーのファー。ソーはラッパのシー。
- > 所 気は確かか。
- > ヤ 失礼ね。これでも作曲してるんですよ。
- > 所 そうかそうか。失敬。それはいいことだ。
- > ヤ 作るって楽しいもん。
- > 所 でも才能はなさそうだな。
- > ヤ あはは。そうですねー。楽器もひけないし。
- > 所 もっと気軽に音を創れるといいのにね。
- > ヤ レコード回してDJするんならできそうな気もするんですけど。
- > 所 こどもがDJにチャレンジするワークショップやってるところあるよ。
2枚のCDを回してプレイするの。
- > ヤ そーゆーの、こどもって大人よりうまかったりするんですよー。
- > 所 創作だけじゃなくて、編集の訓練でもあるんだよ。音を選んで、組み合わせる。
- > ヤ 組み合わせることで曲を作って、聴かせるわけですね。
- > 所 無数の曲の中から、好きなサウンドをまず選びだす、ってところがコアなんだ。
- > ヤ 情報がネットにあふれかえる時代ですから。
- > 所 デジタル時代は、情報を創る力と同時に、編集する能力が大事になる。
- > ヤ それをポップ・ミュージックでやってみよう、という試みなんですね。
- > 所 それで新しい音楽ができるといいな。
- > ヤ ラップからあと、新しい音楽って生まれてないですし。
- > 所 この間そういうワークショップをたくさん集めたイベントが開かれたんだよ。
- > ヤ ああ、ワークショップコレクションでしょ。麻布のレストラン。私も行きましたよ。
- > 所 熱気でムンムンだっただろ。
- > ヤ こどもたち全員でパーカッションを鳴らすワークショップがありました。
- > 所 オルケスタ・デル・ソルのペッカーさんが先生やってくれたんだよね。
- > ヤ こどもも大人も、夢中でドンドコやってみました。とにかく楽しいの。
- > 所 パソコンお絵かきリレーとか、粘土アニメとか、ハイエンドなデジタルのワークショップも多かったんだけど、ペッカーさんがタイコ叩き始めたら会場ぜんたいが一つになっていったよね。
- > ヤ 音の力、リズムの力、ですよ。
- > 所 去年の暮れ、総務省の委員会が「国民総ポップ・クリエイター」っていう方向を打ち出したんだ。それをこどもから広げていく。こういう取組を増やしていくことでね。
- > ヤ デジタル・キッズに期待しましょう。